

(算術式の型)

$A + B$, $A - B$, $A * B$, A / B において、 A , B は定数, 変数, 配列要素あるいは関数とする。このとき、 A , B の型により、その結果の型はつぎのように定まる。

第二演算数

	+, -, *, /	整数型	実数型	倍精度実数型	複素数型	論理型
第一演算数	整数型	整数型				
	実数型		実数型	倍精度実数型	複素数型	
	倍精度実数型		倍精度実数型	倍精度実数型		
	複素数型		複素数型		複素数型	
	論理型					

ただし、斜線の部分は、この結合が許されないことを示す。

[例]

$5 / 2$ …… 除算の場合には小数部分は切り捨てられるので、結果は2となる。

$5./2.$ …… 結果は2.5となる。

$(2.5, -1.0) + (0.5, 2.0)$ …… これは $2.5 - 1.0i$ と $0.5 + 2.0i$ の和を求めるので、結果は $3.0 + 1.0i$ の複素数型となる。

$1.234E2 * 0.248013579865D3$ …… 実定数 $1.234E2$ を倍精度実数化して計算する。

$15.5 + (1.0, 2.0)$ …… 実定数 15.5 は実部を 15.5 , 虚部を 0.0 とする複素数に変換して計算し、結果は $16.5 + 2.0i$ の複素数型となる。

$A * B$ において、 A , B は定数, 変数, 配列要素, あるいは関数とする。このとき、 A , B の型により、その結果の型は、つぎのように定まる。

指数

	**	整数型	実数型	倍精度実数型	複素数型	論理型
底	整数型	整数型				
	実数型	実数型	実数型	倍精度実数型		
	倍精度実数型	倍精度実数型	倍精度実数型	倍精度実数型		
	複素数型					
	論理型					

上の表で斜線の部分の結合は許されないことを示す。

[例]

$5 ** 2$ …… 5を2回掛けて整数型の結果となる。

$5.6 ** 2$ …… 5.6を2回掛けて実数型の結果となる。

$5.2 ** 2.4$ …… 対数をとって計算し、その結果も実数型となる。

$2.864054284D-2 ** 2$ …… $2.864054284D-2$ を2回掛けるので、結果も倍精度実数型となる。

$0.42D3 ** 2.4D1$ …… 結果も倍精度実数型となる。

$2.86 ** 0.2648D1$ …… 2.86を倍精度実数化して計算し、結果も